

史料群番号 53

史料群名	なかなみむら 中波村史料	旧所蔵者	(大西家)
採訪時住所	(富山県射水郡中波村)		
現在の住所	富山県氷見市		
採訪年月	(不明)		
史料の年代	文久2 (1861) 年～明治39 (1906) 年	史料の総点数	79点
年代の内訳	近世 9点/近代 70点	筆写稿本	なし
既刊行目録	「昭和五十三年三月 水産資料館所蔵古文書目録 水産庁水産資料館・日本常民文化研究所」		

収蔵にいたる経緯

採訪書類はなく、詳細は不明である。本史料群は、水産資料館の整理で、茨城県新治郡の史料群とされ、昭和53年3月発行の目録にも、茨城県の史料群として掲載されていた。神奈川県日本常民文化研究所による平成17年度の目録編集の際、常陸国新治郡神立村に関連する史料7点、常陸国真壁郡下谷貝村に関連する史料1点と、下野国河内郡中岡本村に関連する史料1点が混入していることが判明し、それらを別の史料群として位置づけた(No.35「茨城県関係文書」)。残る史料79点は、いずれも富山県氷見郡中波村の史料と考えられ、本史料群に大西の姓が多く登場することから、国文学研究資料館史料館(人間文化研究機構)に祭魚洞文庫旧蔵水産史料として収蔵されている「富山県氷見郡中波村大西家文書」との関係性を考慮する必要がある。祭魚洞文庫については「『漁業制度資料調査保存事業』と資料の整理・保存」の注23を参照。

史料群の概要

富山県射水郡中波村は、近世から明治22年まで存続し、その後女良村を経て、昭和29年に氷見市となる。

中波沖合は定置網漁に適した漁場があり、古くから定置網漁がさかんで、幕末には藁台網による鯛、鮪、鰯漁が行われていた。文久年間に、藁台網に替わって麻苧台網(金網)が開発され、大規模な定置網によって漁獲が拡大した。この麻苧台網(金網)の改良に関わって中波村の定置網漁に貢献したのが、本史料群に登場する大西彦右衛門である(近世越中灘浦台網漁業史)。

本史料群は、大半が明治期の史料だが、それらも台網の経営に関する明治4年「金網方水主指引覚帳」、明治25年「夏網 中波前式番諸魚買上帳」などの諸帳簿によって占められている。

